

＝ 病院の理念 ＝
人間の尊厳と患者の権利を守り、安全・安心の医療、差別のない医療、納得の医療を患者様や地域の方々とともに目指します。

東葛の健康

№ 460 2022年 12月号
[毎月5日発行] [定価1部20円]
発行 東京勤労者医療会東葛病院 院長 井上 均
〒270-0153 千葉県流山市中102-1
TEL 04 (7159) 1011(代)
FAX 04 (7158) 9202
http://www.tokatsu-hp.com/services/out/organization/

「過労死」と向き合う

**東葛の医療
医療と社会
学習会**



土谷良樹医師

働きすぎて亡くなった人たちのために

れ、7年余りの支援活動の甲斐もあり、2010年7月8日に和歌山が成り立ちました。

東葛病院医師部では主に研修医を対象に、

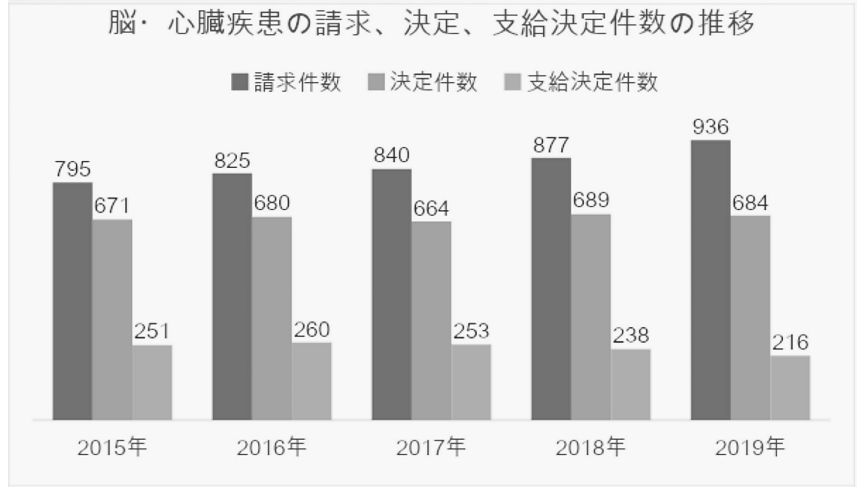
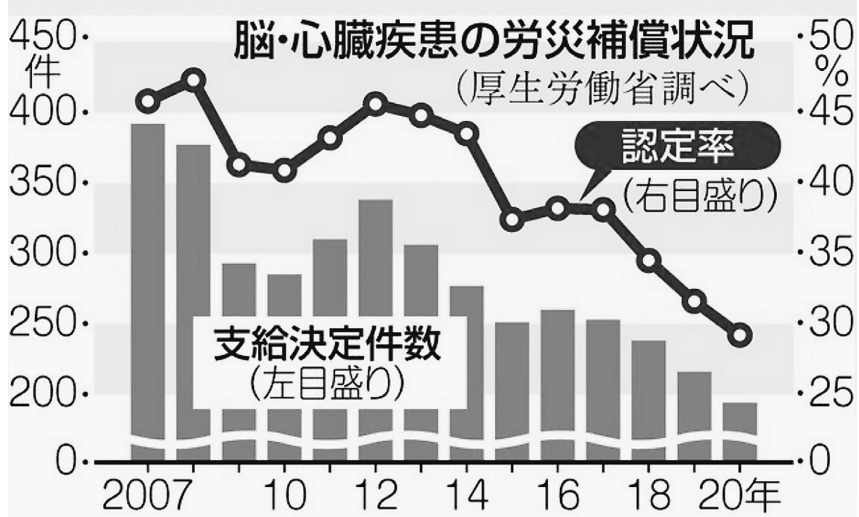
「過労死」は増加の一途

医師に限らず、働きすぎて心身に不調をきたし、突然亡くなってしまふ「過労死」は、日本では頻りに起っており、過労死の認定申請件数は年々増加の一途を辿っています。

「過労死」は、大きく分けて、「脳・心臓疾患」と「精神疾患」の2つに分けられますが、どちらも仕事の原因で起こるものが多いです。多くは業務命令に従うことによる過重労働となり、また少なくないものはパワハラなどの企業内ハラスメントによって精神的に追い詰められ、突然死に至ります。

ある小児科医の死

1998年8月16日、都内の病院の屋上から、新品の白衣に着替え、自ら飛び降りて亡くなった小児科医、中原利郎医師(44歳)。夜間救急を含めた地域の小児医療を一身に担う、小児科部長(代理)でした。この地域の子どもたちのために、と、月に8回もの当直を、休みのない日勤の合間にこなし続けて、過労自死でした。有能で、患者さんへの思いやりにあふれた小児科医の死は、しかし病院側から過労死を認めない態度により、過労死認定が進まず、支援する会が立ち上げら



10月26日の医療と社会学習会

過労死等防止対策推進法の成立
多くの被災者や遺族、そして彼らを支援する心ある弁護士たち

フードバンク 開催します!
先着 100名

日時 2022年12月18日(日) 9:30~11:30
※なくなり次第終了
場所 東葛病院正面玄関前
常温保存可能な食品を小分けにして無料配布いたします。
主催 東葛病院HPH推進委員会

死認定についても、かなり認定数が増えています。また、遺族を中心とした「過労死ゼロ」を目指した社会的取り組みの中で、2014年に超党派の議員立法として国会に提出された「過労死等防止対策推進法」が成立し、これまで高い壁であった過労死認定についても、かなり認定数が増えています。

東葛病院の実践

私たちは東葛病院で日夜を分かたず、地域住民の命と健康を守るために医療を行っています。若くして将来のある命が、しかも亡くなる必要のなかったはずの命が、仕事によって奪われていくことに対して、手をこまねいてみているわけにはいきません。

東葛病院の使命

生きるために働くのであって、仕事のために命があるわけではありません。異常な長時間残業や、度を越えたハラスメントを職場で経験された際には、会社のメンタルヘルスケアなどの制度を活用して良いですし、難しい場合は第三者である医師や弁護士に相談してみてください。労働者本人はそういう状況にあることも多いので、異常を察したご家族でも構いません。東葛病院は、民間に加盟する医療機関ですので、本当に困った時に頼れる存在でありたいと思っています。医師の意見書が役に

聴診器



師走をむかえ街にソングルが響くと無性に読みたくなるコミックがある▼「狛犬探偵」セントメリーのリボン・作・稲見一良(いなみいつら)、絵・谷口ジローだ。二人とも1994年・2017年に永眠されている▼稲見一良は長く記録映画に携わり、58歳でデビューした遅咲きだ。「ダブルオーバックク」ダックコール「ソーザップ」。63歳で亡くなるまでの9冊の著作はすべて珠玉の出来である▼寡黙で人間味とほじろいを感じさせる作風にファンは多い▼その一人でもあった漫画家谷口ジローが企画を温め、絵に起こしたのは2011年。実に著作が世に出て15年後だった▼二人の大ファンである私は狂喜乱舞。勝手に普及委員会会長を名乗る▼御託を並べず早く内容を、と周りが喧しい。でもあんな面白くない▼主人公・竜門卓は狛犬探偵。専ら狛犬を専門に捜索する。しかしこの作品の捜索対象は盲導犬のラブラドルだ▼涙と幸福感でいっぱい傑作、どうぞご一読を(き)